

杏林大学大学院保健学研究科
看護学専攻
博士後期課程入学試験
社会人特別選抜 専門試験

令和8年2月7日 実施

試験時間 午後1時 ～ 2時

注意事項

1. 課題は1題です。
2. 問題用紙は持ち出し禁止です。

【課題】

小児看護学研究における権利擁護として、特に重要と考える事項を挙げ、その理由を説明しなさい。その上で、予測される倫理的ジレンマの具体例を挙げ、どのような点に留意して取り組むべきか、あなたの考えを 600 字以上 800 以内で論じなさい。

①試験問題

小児看護学研究における権利擁護として、特に重要と考える事項を挙げ、その理由を説明しなさい。その上で、予測される倫理的ジレンマの具体例を挙げ、どのような点に留意して取り組むべきか、あなたの考えを 600 字以上 800 以内で論じなさい。

②解答例

小児看護学研究における権利擁護として重要と考えられる事項としては、子どもの最善の利益の尊重、自由意思の尊重と代諾、発達段階に応じた説明と同意（アセント）、対象者の安全性の確保などが挙げられる。小児を単なる研究対象としてではなく、権利の主体として尊重する視点が不可欠であり、そのためには具体的な配慮や方策を講じることが求められる。一方、小児は成長発達の途上にある存在であり、成人と同様に研究参加に関する十分な理解や意思表示を得ることには限界がある。このため、小児看護学研究の遂行過程においては、研究者が倫理的ジレンマに直面しやすい状況が生じる。

例えば、障がい児を対象とした研究においては、自由意思の尊重を重視する一方で、本人から明確な同意を得ることが困難な場合がある。また、親へのインタビューを実施する際には、親の研究参加が間接的に子どもの生活や心身に負担を及ぼす可能性も否定できない。さらに、侵襲を伴う医療処置場面に参与観察する場合には、研究者としての立場と看護職としてケアを提供する立場との間で葛藤が生じることも少なくない。

以上のような倫理的ジレンマを踏まえ、本設問では、受験者が自身の小児看護の臨床経験や研究背景を基盤として、子どもの最善の利益を判断の軸とし、子どもおよび家族への倫理的配慮について、具体的かつ現実的な方法を一貫性をもって論述できているかを評価する。

※本解答例は、特定の内容を正解として示すものではなく、評価の視点を示すためのものである。

③出題意図

本設問は、小児看護学研究における権利擁護について、受験者が倫理的判断の基準となる基礎的な倫理原則（小児の最善の利益、インフォームド・アセント、自由意思の尊重と代諾など）を自らの言葉で言語化できるかを確認することを目的とする。

あわせて、看護職であり研究者でもある立場から、研究遂行の過程において研究と臨床の狭間で生じる倫理的ジレンマを具体的に捉え、あるいは生じうる倫理的ジレンマを予見し、子どもの最善の利益を判断の軸として、子どもおよび家族への倫理的配慮をどのように具体化しようとするのか（例：オプトアウトの設定、対象者の安全性の保障等）を、論理的かつ一貫性のある記述で示せるかを問うものである。

杏林大学大学院保健学研究科
看護学専攻
博士後期課程入学試験
社会人特別選抜 専門試験

令和8年2月7日 実施

試験時間 午後1時 ～ 2時

注意事項

1. 課題は1題です。字数の制限はありません。
2. 問題用紙は持ち出し禁止です。

【課題】

看護師の労働環境に影響する諸要因を、地域間の格差に着目して論述せよ。

【課題】

看護師の労働環境に影響する諸要因を、地域間の格差に着目して論述せよ。

【解答または解答例】

解答基準

本課題は、以下の観点に基づいて総合的に判断する。

1. 課題を理解して問われていることに応答しているか
2. 主張の明確さとそれを支える根拠が妥当であるか
3. 構成がわかりやすく論理的につながっているか
4. 保健医療政策を踏まえた限界や課題に言及しているか
5. 用語使用や文体が適切な表現になっているか

【出題の意図】

本課題の出題意図は、看護師の労働環境は一様に捉えることはできず、地域や組織の成り立ちに等、社会的な背景を踏まえることができるか判断することにある。具体的には、以下の4点の力を判断するものである。

1. 看護を取り巻く社会構造への理解：都市と地方における医療ニーズの共通点と相違点や医療資源の分配
2. 保健医療政策や体制への基礎的理解：診療報酬と人員配置
3. 現状を分析する力と問題意識
4. 自己の考えを伝える論理的思考力

以上